

児童養護施設 救世軍機恵子寮

救世軍機恵子寮は、児童養護施設です。児童養護施設は、家庭の理由により家族と生活することができない子どもたちが暮らしている施設です。主に幼児から高校生までの子どもたちを対象とし、規模や形態など、施設によって異なっており、全国に610ヶ所ほどあります。やはり都市圏に集中していて、東京都関係では59ヶ所、ほとんどが多摩地区にあります。児童養護施設の多くは、第2次世界大戦後、戦災孤児の救済が目的で設立されました。

機恵子寮の特徴は、まず施設名です。設立者の山室“機恵子”的人名がそのまま施設名となっています。山室機恵子は、日本の救世軍の創始者、山室軍平の夫人であり、婦人救済の社会福祉事業の実践者でした。昭和9年12月に、婦人保護施設として救世軍機恵子寮が上池台に設立されました。昭和13年8月に、婦人は他に移り、他の施設から子どもたちが、機恵子寮に移ったことが始まります。

現在の機恵子寮は、上池台4丁目に本園があり、30名の子どもたちが暮らしております。また上池台1丁目と東雪谷4丁目にグループホーム(分園)があり、それぞれの家に6名の子どもたちが、暮らしています。ですので、機恵子寮の子どもたちは、全部で42名となります。

子供たちは、主に近隣の幼稚園、小学校、中学校に通園、通学しており、高校生は、都立、私立高校などに通学しています。

40名の職員は、通勤交替制で子どもたちをグループ(ホーム)で担当しております。子どもたち一人ひとりには、担当の職員が、家族に代わって保護者会などに出席させていただいております。小池自治会の活動では、諸行事に参加させていただいております。また、老人ホーム池上長寿園を訪問、お年寄りと一緒に歌ったり、ゲームを楽しんでおります。

これをご縁に、子どもたち職員共々、宜しくお願ひ致します。

(小池・機恵子寮施設長 山本正晃)

第9回小池公園春祭り開催のお知らせ

小池若者組合では、今年も洗足風致協会並びに小池自治会の協賛を得て、下記のとおり開催いたします。

日 時 4月7日(土)10:00～13:00
※雨天4月8日(日)

場 所 小池公園
催し物 餅つき、綿アメ、宝釣り、輪投げ、ヨーヨー釣り
スーパー保育等

春の小池公園に皆さまお誘い合わせのうえお出かけください。

新年度に向けて

南雪谷地区の自治会長を拝命して早くも3年が経ちました。この間に経験した地区の変化を踏まえ、当自治会の課題と新年度に向けての対策について考えてみました。

当自治会は2,500近い世帯数を抱える大所帯ではありますが、入会率の点では区の平均と比べて必ずしも高いとは言えません。加えて、近年、当地区ではマンションの建設が進むなどして、新しい住民の比率は増えているのですが、これらの比較的若い方々の自治会への入会率が低いため、会員の高齢化も進みつつあります。

自治会が地域の役に立つためには、入会率の低さや会員の高齢化は深刻な問題です。新しい住民の入会率が低い原因の一つは、自治会が、親睦を目的とした催し物などを行う他に、住環境に関する行政への要望や、行政から発信される情報のパイプ役を担い、また、いつ起きてもおかしくないとと言われている災害の発生時には、物資の受け入れや分配を行うなど、防災活動の母体となる重要な組織であることが十分に認識されていない点にあると思われます。

防犯灯などの設置、陳情による環境改善などの成果を掲示板でタイムリーに公開したり、災害時に地域の学校と協力して開設する避難所に関する説明会を開催するなど、広く情報を発信し、また、マンションの入居者には、催し物の共同開催を提案したり、代表者に役員会に参加願うなどして、自治会への認識を高めていきたいと思っています。

若い皆さん、自治会活動に参加して、皆さんの住んでいる街をもっと住みやすくて安全なものにしていきませんか？

(南雪谷自治会長 飯嶋 守)

色々楽しませてもらつた平昌オリンピックも終わり、やっと桜の便りも聞くようになりました。雪谷小学校の生徒さんたちとの交流、救世軍機恵子寮の話、民生委員の活動などの記事には、とかく引っ込みがちになりやすい年配者にも若い人たちとの関わりあえることがまだあるのを感じます。何時か前の「ふれあい雪谷」に載せた「オカリナの話」がきっかけになって初心者のオカリナ教室が笹丸にできたりもしています。私はこの雪谷に住まいして40年になりますが、振り返ってみると人生の中で一番長く住んでいる街になつています。小さな出来事に興味を持つて楽しい「ふれあい雪谷」になりました。

(笹丸・森信節子)

編集後記

ふれあい雪谷(創刊:平成2年(1990)12月20日) 年4回発行
(1月:新年号／4月:さくら号／7月:あさがお号／10月:もみじ号／の1日発行)
[発行日] 平成30年(2018年)さくら号 4月1日(通巻:第110号)発行
[発行] 地域力推進雪谷地区委員会 [編集]「ふれあい雪谷」編集委員会
[連絡先] 雪谷特別出張所
〒145-0065 大田区東雪谷3-6-2 電話3729-5117 FAX3729-1826

ふれあい
雪谷

平成30年 4月 さくら号 通巻第110号



シルクスクリーン版画
笹丸・森信節子さんの作品

大森第十中学校 校庭改修工事が完了しました

7ヶ月にわたって進められてきた校庭改修工事が完了いたしました。今年度、大森第十中学校は開校70周年を迎えるに慶祝行事を行いました。これまで70年の歴史をひもとくと、かつての木造だけだった時代からやがて校舎改築、校庭の整備、そしてアート館や体育館棟の増設などを経て、現在の中学校の様相を呈しています。

校庭改修工事を進める中でわかったことがあります。それは、古い砂の層の下に大きな丸太が何本も埋められていることや、水が止めどなくわき出る層があることでした。地域の方にお話を伺うと、ここは歴史的にはきれいな里山の麓で葦畠が広がっていました、のどかな田園風景が広がっていたようです。その中で、大森第十中学校のためにと、地元の方々が土地を提供してくださり、校庭へと変貌を遂げました。時には緩い地盤を整えるために丸太を運び、地元住民の手で埋めて強度を高めていったことも教えていただきました。段差にスロープを設置したり、伝統である菊の栽培のために整地したりすることも地域の方の真心で進められてきました。大森第十中学校は地域・保護者・卒業生などに愛され、守られ、支えられて現在に至ることを強く感じます。

今回の改修工事では、グリーンダストが2層で埋められ、効率よく水はけができるようになります。鉄棒の安全領域が新基準で適切にとられ、環境に優しい色で統一されました。排水の設備も細かく調整され、管理しやすいようになっています。また、散水システムも大きく変更され、校庭全域にくまなく放水されます。

地域や保護者の皆様には、改修工事にあたり、多大なご理解とご協力を賜りましたことをあらためて御礼申し上げます。今後、部活動や運動会、地域行事などで実際にご覧いただけます。新しい歴史がここから生まれるように、教職員一丸となって教育活動に邁進していく決意です。これからも変わらぬ、ご支援とともにご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。

(大森第十中学校副校長 稲葉高広)



(雪谷石川台・越野千代子)



民生委員は大変なことばかりでなく楽しい仲間がいっぱいいます。現在十三名で雪谷地区を担当しています。沢山の皆様が経験してくださるとうれしく思います。

民生委員をお受けしたのは確かに自主事業の一翼を担ってきたが、区民の方に多少なりともお力添えができたか忸怩たるものがある。七年前、東京国立博物館を辞し、今後、如何なる命題を以って生きるかを考え、「ガラス越し（博物館）の文化発信から人の手から人の手に伝える文化発信」とした。例えば古美術の継承は正に人の手から人の手によって継承された、故に「伝世品」と呼ぶ。六年前、洗足区民センターに勤めることになり、私の命題を如何に敷衍（ふえん）するかと考え、区民の方々に、自分達も伝世品を継承するという時間・歴史の連続性の当事者であることに気付いて頂こうと「土曜文化講座」を立ち上げた。しかし、区民の方に当事者であることを実感して頂くには、情熱が迸（ほとばし）る講座の力が必要、それには、斯界の第一人者に最新の研究を熱く語ってもらうことが必須。更に平易・簡明であること。講師には「炉辺談話」のようにと無理強いもした。私の旧知の仲間が情熱を以って取り組んだ結果、二十三回にも及び、延べ1,491人が参加、満足度も8割強のアンケート結果となった。区民の方が少しでも歴史の連続性の中にいることを意識の片隅に覚えることができたら嬉しい限りである。私は、連続性を意識する環境を醸成して行きたい。山水画に感情移入するのに原風景体験が想起されて会話が成立するように。私が節句・習俗に拘るのもそこに遠因がある。遠い昔、父が季節・節句毎に床の掛軸を掛け替えていた。私は、そこで季節を感じ、空気と時候の移ろいに目を転じた。もはや失われたとも言える日本の原風景・習俗。手から手への文化の発信をするために、日常の原風景を取り戻す感覚が必要と考えたのである。

古きを温（たず）ねるには努力が必要となった時代である。私は、今後も文化発信を模索して行く。伝世品を愛でる人々の眼に畏敬の念と愛情を見たいが故に。

(前洗足区民センター副所長 竹内 茂)

民生委員を経験して

文化を伝えるとは

私は、三月を以って洗足区民センターを辞した。六年間に亘り自主事業の企画の一翼を担ってきたが、区民の方に多少なりともお力添えができたか忸怩たるものがある。

七年前、東京国立博物館を辞し、今後、如何なる命題を以って生きるかを考え、「ガラス越し（博物館）の文化発信から人の手から人の手に伝える文化発信」とした。例えば古美術の継承は正に人の手から人の手によって継承された、故に「伝世品」と呼ぶ。

六年前、洗足区民センターに勤めることになり、私の命題を如何に敷衍（ふえん）するかと考え、区民の方々に、自分達も伝世品を継承するという時間・歴史の連続性の当事者であることに気付いて頂こうと「土曜文化講座」を立ち上げた。しかし、区民の方に当事者であることを実感して頂くには、情熱が迸（ほとばし）る講座の力が必要、それには、斯界の第一人者に最新の研究を熱く語ってもらうことが必須。更に平易・簡明であること。講師には「炉辺談話」のようにと無理強いもした。私の旧知の仲間が情熱を以って取り組んだ結果、二十三回にも及び、延べ1,491人が参加、満足度も8割強のアンケート結果となった。区民の方が少しでも歴史の連続性の中にいることを意識の片隅に覚えることができたら嬉しい限りである。私は、連続性を意識する環境を醸成して行きたい。山水画に感情移入するのに原風景体験が想起されて会話が成立するように。私が節句・習俗に拘るのもそこに遠因がある。遠い昔、父が季節・節句毎に床の掛軸を掛け替えていた。私は、そこで季節を感じ、空気と時候の移ろいに目を転じた。もはや失われたとも言える日本の原風景・習俗。手から手への文化の発信をするために、日常の原風景を取り戻す感覚が必要と考えたのである。

古きを温（たず）ねるには努力が必要となった時代である。私は、今後も文化発信を模索して行く。伝世品を愛でる人々の眼に畏敬の念と愛情を見たいが故に。

(前洗足区民センター副所長 竹内 茂)

お守りください、雪谷の子たちを

雪谷小学校より、周辺の自治会に子供達と「生活科の授業で伝承遊びを」との話がありました。それに応え、我が希望ヶ丘では11名が参加しました。私にも声がかかり、心よく受けました。

昨年の12月7日、私たち自治会では雪谷小学校へ出向き、昔の遊びであるコマや、おはじきなどで小学2年生と遊ぶ授業に参加しました。

体育館でコマ、剣玉、竹馬、折紙などの遊びを大人と進んでやろうとする子供の勢いで時間の経つのを忘れてしました。地域の大人たちは、子どもが喜んで遊びに集中する様子を見て、温かい気持ちになりました。



遊びが終わると、小学2年生からの感謝の言葉の後、一人ひとりの大人は児童に手を引かれ、各教室に招かれました。私は5人のグループのテーブルに招かれ、給食をいただきました。

おいしい給食を食べながら、「どこから、学校へ通っているの？」と聞くと、「呑川の近く」と答えました。私は「小さい川がいくつも流れ込み、いっぱい水を飲むので、呑川と言うのよ」と話しました。そして、「昔の子は親の作ってくれたお弁当を食べました。こんなおいしい給食は食べられません。貧しくて、お弁当を持たせられなかった子は、教室の後ろで、本を読んで時間をつぶしていたのよ…」と話しました。

数日後、2年生の児童5人から「呑川の話がおもしろい」「昭和と平成の違いがわかりました」「お母さんにも話をしました」とお礼の手紙を頂きました。こんなに伝わるなんて！びっくりしました。昭和から平成と時代が流れてきたことなど、興味をもって話を受け止めていたことに感動しました。この子たちが成長した時、昔、呑川の洪水時に携わった人がいることを図書館の本や大人の話でより深く理解できると思います。子供たちの受け答えに対し、日本の未来に明るい兆しが見えてきました。

明けて1月3日、雪ヶ谷八幡神社へ行き、伝承遊びで出会った子供のお願いをしました、「水の神様、科学の神様、学問の神様、どうぞ、健康で知恵のある子に育ちますようにお守りください」と。

(希望ヶ丘・山崎マサ子)

